

ひょうご基幹道路あり方検討委員会（第4回委員会） 議事要旨

1. 日 時 平成30年3月20日（火）15:00～16:00

2. 場 所 兵庫県民会館 7階 亀

3. 出席者（◎委員長）

[委 員] ◎角野 幸博 関西学院大学教授
宇野 伸宏 京都大学大学院教授
小池 淳司 神戸大学大学院教授
今西 珠美 流通科学大学教授
宇田川 真之 人と防災未来センター研究主幹
中林 志郎 兵庫県商工会議所連合会専務理事
志智 宣夫 兵庫県商工会連合会会長
糟谷 昌俊 兵庫県県土整備部長
[オブザーバ] 橋本 雅道 国土交通省近畿地方整備局道路部長
(代理:山田雅義)(国土交通省近畿地方整備局道路部道路企画官)

4. 議 事 (1) 道路利用者ヒアリング結果について
(2) パブリックコメント結果について
(3) 「ひょうご基幹道路のあり方(案)」について

5. 議事概要<委員からの主な意見等>

(あり方案について)

- ・本編5ページの災害の部分では、主に地震に対する記載が多いが、雪や風水害など多様な災害への記載もあればよい。
- ・老朽化対策については、兵庫県は多様性がある地域なので、積極的に取り組むことで新しい産業育成につながる側面もあると期待される。
- ・パブリックコメントでは、基幹道路に接続する道路整備への意見が多い。基幹道路だけでなく、地域の実情に合わせてアクセス道路など周辺道路の整備を進めることで、基幹道路の利便性向上を図ることができる。
- ・本編25ページのモーダルコネクトというのは、一般の人には伝わりにくい。何かわかりやすい表現にしてはどうか。また、道の駅の活用についてももう少し記載があればよいのではないかと。

(あり方の活用や整備計画の策定について)

- ・「あり方」をどう活用するかが重要。県民向けには、道路が十分あるのかどうか、客観的に示していく必要がある。行政内部には、産業や農業など他分野とも情報共有し連携が必要なことを周知すべき。

- ・「あり方」は、兵庫県全体の計画であり、例えば、但馬や神戸の人たちに、お互いの道路事情について理解してもらわないといけない。県民として、兵庫の道路をどうするか、シンポジウムなどを利用して、考えて理解してもらうことが重要。
- ・県政 150 周年記念事業の基幹道路シンポジウムでは、基幹道路の整備により県民の生活がどのように変わるのか、身近な事例を示して説明することで、よりわかりやすいものになる。例えば、阪神大震災の時にも複数の軸があったため、日本海側から回り込んで復興を支えることができた。
- ・財政的に厳しいことは明らかなので、負担のあり方については、今後もう少し踏み込んだ検討をしても良い。
- ・基幹道路と既存ネットワークとの連携や基幹道路により地域の生活がどうつながるのかなど、きめ細かい配慮が基幹道路を提案していく上では不可欠になる。

(基幹道路の利活用について)

- ・道路の利活用については、整備した側だけでなく、整備された地域の側でも、道路が利用され地域活性化につながるよう取り組んでいくことが大事。
- ・道路を賢く使うということでは、例えばコミュニティバスの行政区域を越えた連携などがあれば、道路を有効に利用できる。

(その他)

- ・第4回委員会での意見を踏まえた「あり方」の修正は、委員長に一任。